

Vol.  
39

ぞうぎていしょう  
臓器提供ご家族の手記

# think transplant



誰かの命をつなぎ、この空の下で、生き続けている。

だれ  
誰かの命をつなぎ、この空  
の下で、生き続けている。

「お父さん、自分で呼吸ができなくて、瞳孔が  
開いてきちゃっているって」

前の日、自宅で倒れた父は、病院に救急搬送  
され手術を受けていました。

手術は成功したはず、私は勝手にそう思い込んで  
いました。

「お父さんの命は、もってあと一週間。今の  
状態は、脳死状態です」

病院の先生の言葉は、さらに続きました。  
「<sup>のうし</sup>脳死<sup>ぞうきていきょう</sup>の方は、臓器<sup>かのう</sup>提供<sup>かんじゃ</sup>をすることが可能です。  
そしてそれは患者<sup>かんじゃ</sup>さんの意思で決まります。  
患者<sup>かんじゃ</sup>さんの意思が分からない場合は、どうされるかご家族で話し合っ<sup>て</sup>決めてください」

父はボランティアによく携<sup>たずさ</sup>わってきた人でした。  
東日本大震災<sup>しんさい</sup>の時も現地<sup>げんち</sup>まで行き、困<sup>こま</sup>っている人たちの手助けをしていました。  
今、父に、どうしたい？と聞いたら、きっと、臓器<sup>ぞうき</sup>を必要としている人がいるならあげてほしいと言うんじゃないか・・・それが私<sup>わたし</sup>たち家族が話し合<sup>けつろん</sup>って出した結論<sup>けつろん</sup>でした。

父<sup>たお</sup>が倒れて四日後の朝、脳死<sup>のうし</sup>の判定<sup>はんてい</sup>が下され、  
父は、法律上<sup>ほりつじょう</sup>「死亡<sup>しばう</sup>」となりました。

死亡<sup>しばう</sup>した父の体の中から、心臓<sup>しんぞう</sup>、肺<sup>はい</sup>、肝臓<sup>かんぞう</sup>など  
計六個<sup>こ</sup>の臓器<sup>ぞうき</sup>が取り出されました。

そして、全国各地の病院に運ばれていきました。

月日は流れ、ある日いつものように仏壇<sup>ぶつだん</sup>の前で  
手を合わせ泣いていた私<sup>わたし</sup>の隣<sup>となり</sup>に、弟<sup>あに</sup>がちょこん  
と座<sup>すわ</sup>りました。

「お父さんがいなくなって寂<sup>さび</sup>しくないの？」

弟は答えました。

「寂<sup>さび</sup>しくないよ。だってお父さんの心臓<sup>しんぞう</sup>はしっかり  
動いているでしょう」

<sup>わたし</sup>私ははっとしました。そうだ、父はまだ生きている。  
<sup>だれ</sup>誰かの命をつなぎ、この空の下で、生き続けている。  
立ち止まっているのは私<sup>わたし</sup>だけだ。  
弟の言葉は、私<sup>わたし</sup>の心の中にあった重たい石の  
ようなものを吹き飛ばしてくれました。

もし、愛する家族を突然<sup>とつぜん</sup>失ったら?.....それは、  
受け入れがたい事実です。  
しかし、私<sup>わたし</sup>も、そしてあなたも、明日の命<sup>ほしよう</sup>を保証  
されている人は誰<sup>だれ</sup>もいません。  
だからこそ、今日というこの一日を大切に生きよう。  
できることを精<sup>せい</sup>一杯<sup>いっぱい</sup>やっいていこう。  
そして、伝えたい。みんなに...「ありがとう」を。

「元気に明日を迎えられることは有り難いこと。  
その与えられた尊い一日をどうやって生きるの  
か、決めるのは自分自身」  
父のこの最後の教を胸に、私は一日一日を、  
自分らしく笑顔で生きていきたい。

(think transplant vol.39より抜粋)







臓器移植に関するご質問・お問い合わせ先  
公益社団法人日本臓器移植ネットワーク  
 0120-78-1069 (平日 9:00-17:30)